

## 一般社団法人チャイルドライフ

発達障がいに対する理解を深める  
音楽ムーブメント体験会の実施と  
「発達に凸凹のある子ども達」の受け入れ

東京都八王子市みなみ野1-7-1 第三学生会館

設立年月日 2011年9月1日

代表者 代表理事 庄司 孝

児童福祉事業責任者 都築 博

職員数 グループ全体：34人（平成26年4月1日現在）

正職員 12人

契約職員 2人

パート職員 20人

1. 当法人について
2. 解決すべき社会的課題
3. 計画の概要
4. 実施報告
5. 今後の展望



# 1. 当法人について

すべての子育てをストレスフリーに——

子育てする人の「こんなサービスほしい」を実現していきます



**すべての子育てを、ストレスフリーにする。**

幸せの基本となる子育てが、現代の都市型の生活の中ではストレスとなることも。  
この矛盾を解決したい・・・私たちが畑違いの保育事業を志したときの原点です。

育児に追われて疲れた家族の姿、そんな身近な人たちの悩みを世の中から無くしたいと願っています。

自分たちが必要だと思うことを、業界の常識にとらわれずまずは実現してみる。  
その先に私たちが目指すものが見えてくると信じています。

## 定款目的事項 (非営利型一般社団法人)

1. 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業
2. 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業
3. 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業
4. 障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業
5. 保育所の設置運営
6. 放課後児童健全育成事業
7. 子育て支援事業
8. 移動支援事業
9. 福祉有償運送事業
10. スポーツの普及新興に関する事項
11. スポーツ選手・スポーツ団体の育成に関する事業
10. その他、社会福祉およびスポーツを目的とする事業の企画及び実施
11. 前各号に付帯又は関連する一切の業務

## 沿革

- 2010年 2月 東京都国立市にて株式会社オールとして創業
- 8月 練馬区に学童保育ベルテール豊島園教室を開設
- 12月 八王子市に学童保育ベルテールみなみ野教室を開設
- 2011年 3月 児童デイサービスの開設準備開始
- 9月 社団法人チャイルドライフを設立
- 2012年 2月 高知県事業者指定をうけベルテール児童デイサービス須崎園開設
- 4月 木更津市立波岡小学校区学童保育所つばめクラブ運営開始
- 4月 学童保育ベルテールの運営を(株)オールから移管
- 2013年 4月 東京都事業者指定をうけベルテール児童デイサービスみなみ野園開設
- 2014年 1月 千葉県事業者指定をうけベルテール児童デイサービスつばめ園開設
- 4月 サッカースクール事業開始

## 運営施設

「公益法人会計基準」に基づく会計処理を行う非営利法人

学童保育ベルテール  
(民間型学童保育)

<みなみ野>

12年4月  
(株)オールから業務移管

木更津市立  
波岡小学校区  
学童保育所  
<つばめクラブ>  
(公的学童保育)

八幡台小学校区  
<ベルテール  
羽鳥野>

14年7月  
開設準備中

ベルテール  
児童デイサービス  
<木更津つばめ園>  
児童発達支援事業所  
放課後等デイサービス

14年1月  
千葉県事業者指定

ベルテール  
児童デイ  
サービス  
<みなみ野園>  
児童発達支援事業所  
放課後等デイサービ  
ス

13年4月  
東京都事業者指定

ベルテール  
児童デイ  
サービス  
<須崎園>  
児童発達支援事業所  
放課後等デイサービス

12年2月  
高知県事業者指定

## 2. 解決すべき社会的課題

## 日本経済新聞

### 小中学生の6.5%に発達障害の可能性 4割は支援受けず

2012/12/5 17:00 (2012/12/5 21:31更新)

全国の公立小中学校の通常学級に在籍する児童生徒のうち、人とコミュニケーションがうまく取れないなどの発達障害の可能性のある小中学生が6.5%に上ることが5日、文部科学省の調査で分かった。推計で約60万人に上り、40人学級で1クラスにつき2、3人の割合になる。しかし4割弱の児童生徒は特別な支援を受けておらず、専門家は「支援策を話し合う校内委員会などが十分に機能していない」と指摘している。

調査は今年2～3月、東日本大震災の被害が大きかった岩手など3県を除く1200校を抽出して実施。約5万2千人の授業中や学校での行動を尋ね、報告をもとに同省が判定した。

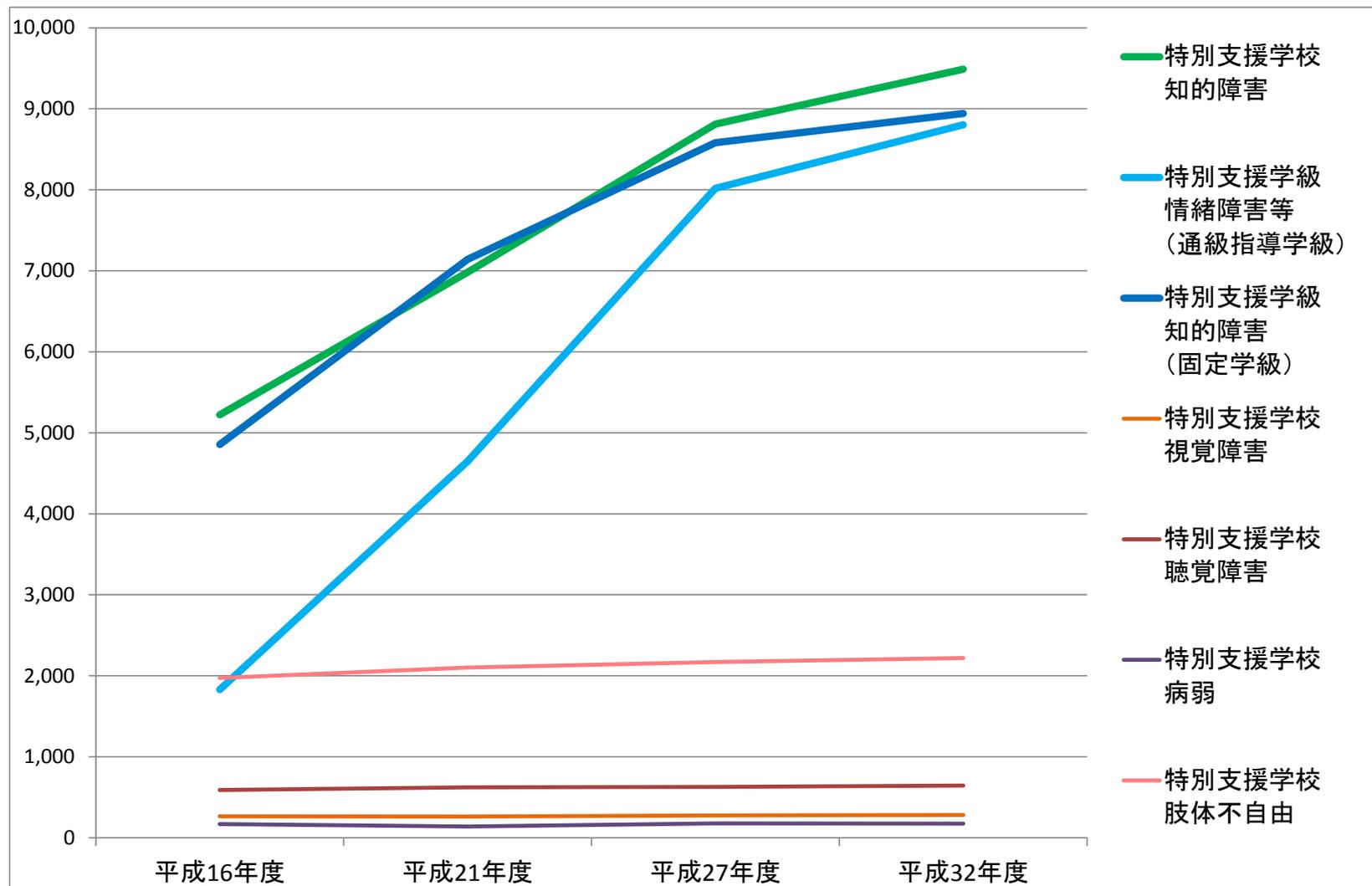
調査方法が異なるため前回の2002年の調査とは単純比較できないが、発達障害の可能性のある児童生徒の割合は0.2ポイント増えた。男子は全体の9.3%、女子は3.6%だった。学年が上がるにつれて減り、小1は9.8%だったが、中3は3.2%だった。

「書く」「聞く」「計算する」など特定の分野の学習に困難を示す学習障害(LD)の可能性のあるのは4.5%。注意力の欠如や衝動性などを特徴とする注意欠陥多動性障害(ADHD)とみられるのは3.1%で、知的発達に遅れない高機能自閉症と判断されたのは1.1%だった。

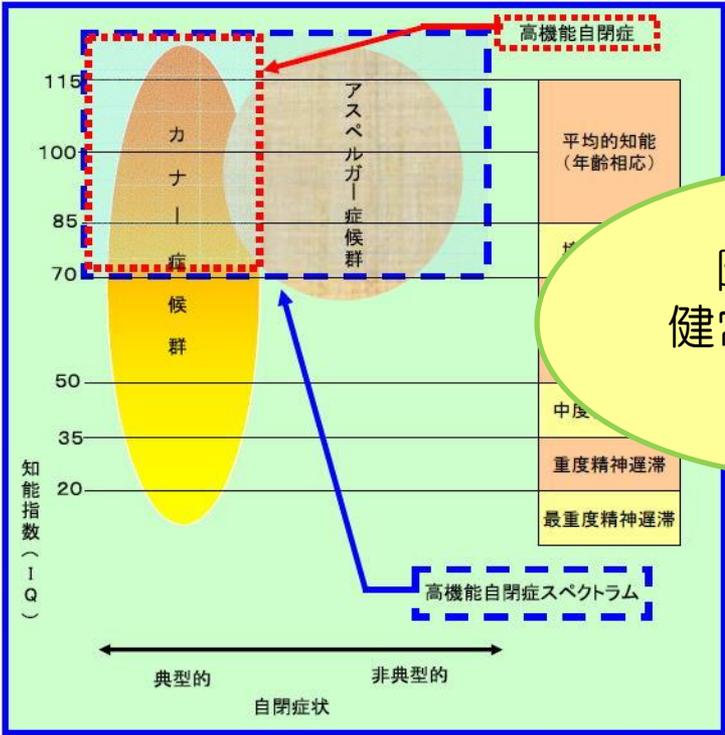
対象の児童生徒のうち、58.2%は教員がより丁寧に教えたり教卓に近い席に移したりするなどの支援を受けていたが、38.6%はこうした支援を受けていなかった。支援策を話し合う校内委員会で支援が必要とされた子は18.4%だった。

同省は児童生徒に発達障害の可能性のある場合、個々の状況に応じた指導計画を作るなどの対応方法を示している。しかし計画が策定された児童生徒は11.7%にとどまった。

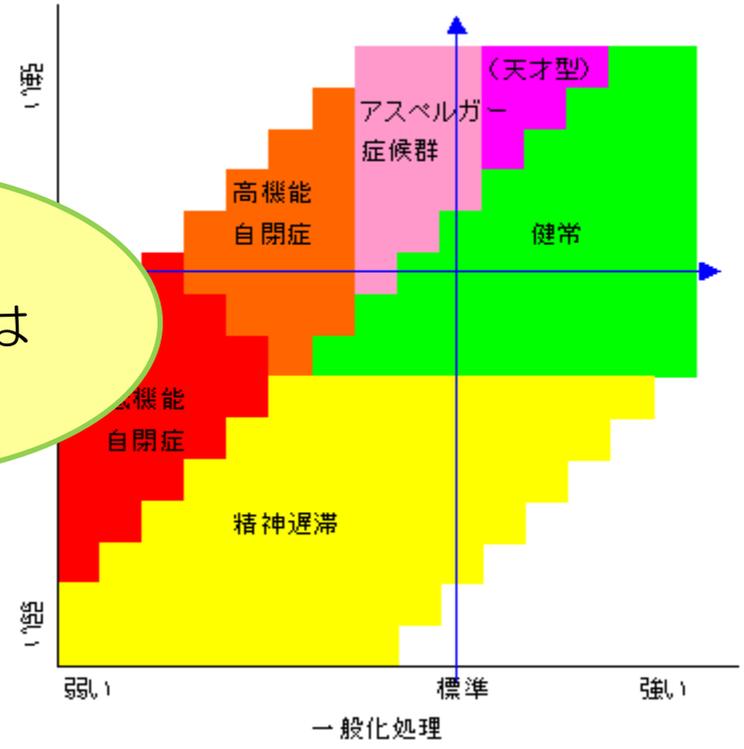
発達障害の子供の教育に詳しい大学入試センターの上野一彦特任教授は「発達障害の可能性があるとまで判定はされなかったものの、近い問題を抱える子供は多い。こうした子たちへの支援も重要だ」と指摘している。



知的障害の児童のみ増加し続けている。（東京都以外の県でも同様の統計結果）



障がい児と  
健常児の境界は  
あいまい



普通学級  
学童保育

区分して  
支援することには  
限界がある

特別支援学校・学級  
放課後等デイサービス

発達障がい  
が軽いため、  
専門の支援が  
受けにくい。

もっと定型発達  
の子とかかわる  
場所をつくって  
あげたい。

たくさんの  
お友達がいる  
場所では落ち  
着いて過ごす  
ことが難しい。

どのような  
学習環境を  
用意してあげ  
ればいいのか  
悩んでいます。

多様化するニーズ。  
“子どもの世界”で  
解決したい課題も多い

発達障がい  
に理解が得られず、  
子ども同士の  
トラブルにより  
放課後の居場所を  
失ってしまった。



### 3. 計画の概要

- 4月から「学童保育ベルテール」の隣地に「ベルテール児童デイサービス（放課後等デイサービス）」を開設。2施設が連携し環境整備を進める。
- 比較的軽度の発達障がいがある「発達に凸凹のある子どもたち」の放課後の居場所を「学童保育ベルテール」内に作り、日常的な生活習慣を支援する。
- 親の会「かたつむりの会」（注：現NPO法人発達凸凹サポートかたつむり）と協働し、「発達に凸凹のある子」の保護者と学童保育チーム、ボランティアがともに学び交流できる「音楽ムーブメント体験会」やその後の勉強会を設定する。





クリエイティブ音楽ムーブメントは、障がいのあるなしに関わらず、赤ちゃんから大人の方まで楽しみながら、人間の生涯発達を支える創造的なプログラムです。音楽や動きを楽しむ、お互いの自尊感情と創造力を大切に、こころ、感受性、知性の発達を支えます。

どんな子も  
楽しみながら  
お友達との  
違いを理解し  
ていく



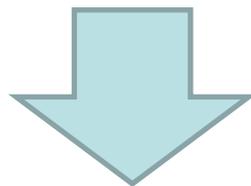
明星大学教育学部心理・教育学科教授。保健学博士。  
日本音楽療法学会認定音楽療法士。 映画『星の国から孫ふたり』監修。ユニバーサル音楽ワークショップ研究会代表。サポーター育星プロジェクト研究協会代表。

- こども家族早期発達支援研究会 会長
- クリエイティブ音楽ムーブメント協会主宰

- 障がいのある無しにかかわらず、子どもたちが地域社会において適切な放課後の居場所を確保できるように連続性のある“場”を整備する
- それぞれの発達特性に合わせた適切な支援が受けられるような状態を八王子市みなみ野において作る
- さらに、子どもひとりひとりの支援の必要性に応じた対応方法を知識として共有する



- ◆ 「学童保育」と「児童デイサービス（放課後等デイサービス）」の連携
- ◆ “発達障がいのある子の居場所作り” について加配に頼らないノウハウ



八王子みなみ野での取り組みが全国的に意味がある事例となる

## 4. 実施報告

地域の子供たちと保護者が参加する体験会を全9回  
(うち事業年度内8回)実施



<ムーブメント体験会>

- 良かった点：当初想定していた保護者や子供たち・当法人の職員だけでなく、他の通所支援事業所の職員さんや地域の保育園の先生など、当初想定していたのとは違った形で地域からの参加者があり、支援にあたる地域の輪を予想以上に広げることができた。
- 反省点：学生ボランティアの受け入れを想定していたが、明星大学や城西大学からの学生さんについてインターシップの形で受け入れた。地域ボランティアも参加が無く、計画していたボランティアに対する謝礼がほとんど発生せず、期中で予算計画を修正・変更申請した。

平成25年3月3日(日) 10:00~12:00  
参加者 6家庭(こども10名 大人7名) スタッフ 10名 未就学児親子対象

平成25年4月21日(日) 10:00~12:00  
参加者 5家庭(こども8名 大人6名) スタッフ12名 未就学児親子対象

平成25年5月12日(日) 10:00~12:00  
参加者 8家庭(こども14名 大人10名) スタッフ15名 未就学児親子対象

平成25年6月29日(土) 15:00~17:00  
参加者 1家庭(こども2名 大人1名) スタッフ3名 未就学児親子対象

平成25年7月13日(土) 15:00~17:00  
参加者 4家庭(こども6名 大人4名) スタッフ4名 ベルテル利用児親子対象

平成25年8月10日(土) 15:00~17:00  
参加者 9家庭(こども15名 大人10名) スタッフ9名 地域の親子対象

平成25年9月22日(日) 10:00~12:00  
参加者 8家庭(こども13名 大人10名) スタッフ13名 未就学児と兄弟児親子対象

平成25年10月6日(日) 10:00~12:00  
参加者 7家庭(こども11名 大人8名) スタッフ13名 未就学児親子対象

平成25年11月17日(日) 10:00~12:00  
参加者8家庭(こども13名 大人8名) スタッフ13名 未就学児親子対象

<支援にあたる大人による勉強会>



# 学童保育ベルテールとクローバータイム



月に1~2回、学童保育と放課後等デイサービスの児童たちが交流する時間を設定

- 知的障がいを伴わないアスペルガー症候群（特別支援学級）
  - 学校では集団生活についていけない傾向があり、敷地外への飛び出し、教室からの抜け出し、教室中の机・椅子をひっくり返して暴れる、などの行動あり
  - 市の子ども家庭相談支援員さんから連絡を受け、学童保育ベルテールにて放課後の受け入れ開始
  - 後に、通所受給者証の取得により、放課後等デイサービス（ベルテール児童デイサービス）の併用利用開始



今回のプロジェクトにより、落ち着いた放課後の居場所づくりにもっとも成功した事例。児童本人も、周囲の理解を得ながらマイペースで過ごしており、学校から当初連絡があったような問題行動はほとんどない。

## 事例紹介② Bさん

### □ 情緒障害傾向（普通学級在籍）

- 定型発達児と発達障がいのある子のボーダー上に位置している子（発達に凸凹がある子）。集団の中にとくとくと、学習についていくのが難しかったり、感情のコントロールがうまくいかず、年齢よりも幼い印象だが、保護者は「発達障がい」とは考えていない。
- 以前から学童保育ベルテールに在籍していたが、行動の切り替えができなかったり、ほかの子との人間関係がうまくいかなかったりするため、学童保育の職員からも「どう対応すべきか」と悩みがあがっていた。
- 学童保育と放課後等デイサービスの職員が相談できる体制になったこと、クローバータイムにより子供同士の相互理解が深まったことにより、以前よりも職員が対応に困ることが少なくなった。

「凸凹のある子」の保護者には、その傾向に気が付かない（あるいは気がついていても認められない）方も多い。この場合、子どもの居場所づくりは気を使うものになるが、本プロジェクトの結果、以前よりもスムーズな受け入れができています。

# 成果のまとめ

- 放課後等デイサービスとの連携の元、アスペルガー症候群・情緒障害・軽度発達障害のある子の適切な放課後の居場所を作ることができた。学童保育において予想以上にスムーズにこうした特性を持つ子たちの居場所を作ることができ、派生的な効果として、普通学級に在籍しているが軽微な発達障がいを持つと思われる子たちの落ち着いた居場所も実現することができた。地域コミュニティにおいて、健常児・障害児の区分にかかわらない、さまざまなタイプの子ひとりひとりが満足できるような丁寧なケアモデルとして、学童保育と放課後等デイサービスの連携が有効であることは実証できた。
- 課題：メインの居場所が、学童保育からデイサービスに途中で移っていったケースがあった。①子ども自身が放課後等デイサービスを居場所として気に入ってしまった場合。②保護者が“学童保育よりも放課後等デイサービスの方が、保護者負担が少ない”ことに気が付いた場合
- 本事業で得たこれらの経験から「発達に凸凹のある子たち」に対する充実した支援体制を実現させるためには、本計画で当初想定していた学童保育内で行うのではなく、「学習支援型の放課後等デイサービス」の方が有効、と考え始めた。対象年齢についても当初考えていた小学生ではなく一人一人の特性やできることが明確になってくる中学生（一部小学生の高学年）をメインとし、みなみ野で独自のプロジェクトとすることを考えている。

## 4. 今後の展望

# 「ベルテールみなみ野」の方向性

- 本事業は「学童保育内に軽度の発達障がいのある子の居場所をつくる」ことを目標として、一応の成果を上げることができたが、1年間の取り組みの経験からこの取組は学童保育内で行うよりもそれに特化した放課後等デイサービスで行う方がより有効ではないかと考えるに至った。
  - 「重い障害のある子や低学年中心の預かり型放課後デイサービス」
  - 「発達に凸凹のある子（軽度発達障害のある子）や高学年中心の学習支援型放課後等デイサービス」
  - 「定型発達児の学童保育」
- 市民企画事業としては今年度で完了し、障がい児通所施設としての「学習支援型デイサービス」の実現に向けて取り組んでいきたい。（平成27年度新学期の開設が目標）

# 学童保育と放課後等デイサービスの連携

- 千葉県木更津市にてチャイルドライフが運営する「波岡小学校区学童保育所つばめクラブ」に隣接し、「ベルテール児童デイサービス木更津つばめ園」を開設（平成26年1月）
- みなみ野と同様の、「学童保育と放課後等デイサービスの連携」を展開した。



両施設前の児童公園

（より自然な形で、障がいのあるなしに関わらない放課後の子どもの居場所ができています。）

# 「クリエイティブ音楽ムーブメント」

## 親子で♪ 音を感じてからだをうごかそう

\*クリエイティブ音楽ムーブメント 全9回プログラム\*

ピアノの音の流れるお部屋で、様々な創造的な活動を親子で楽しむプログラムです。

～「からだを動かす」ということは、子どもにとっても大人にとっても健康の基本となる大切な要素です。興味をもって動き、感じたり発見したり、楽しくなって喜んだり笑ったり泣いちゃったり...その気持ちをお母さんが共感してくれることで、こころが育ちます。～

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

日程：全9回プログラム

H26年6月7日(土)、7月5日(土)、9月6日(土)、10月4日(土)、11月8日(土)

12月6日(土)、H27年1月17日(土)、2月7日(土)、3月7日(土)

時間：14時30分～16時30分

対象：成長がゆっくりであったり、発達に凸凹を抱えているお子さんと  
そのご家族。1歳から小学校入学までのお子さんご家族 10組

参加費：親子1組 1,000円/保険込

(参加者が1名増えるごとに子ども大人どちらも1人300円)

会場：学童保育ベルテールみなみ野 プレイルーム 裏面地図参照

講師：川辺美佐氏 クリエイティブ音楽ムーブメントインストラクター・保育士

「わが子に障がいがあるかもしれない」「発達に凸凹があるかもしれない」とわかった早期の段階で親子がスムーズにコミュニティに溶け込み、以降必要な支援につながっていくための入り口イベントとして位置づけ。



今年度も、「NPO法人発達凸凹サポートデザインかたつむり」との協力により「クリエイティブ音楽ムーブメント」を実施します。(主催：かたつむり・協賛：チャイルドライフ)